

海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2018/07/06 ～2018/08/04)

1. 勉学の状況

授業が始まる前の週に、留学生のためのオリエンテーションガイダンスが行われ、RMIT 大学の施設、サポート、学生団体、イベント等の説明がされました。授業は16日に始まり、始めの二週間は登録期間として様々な授業に参加することができます。私は「Intercultural communication」、「Introduction to Australian Society」、「Language Management in International Organizations」の3コースの履修をすることにしました。1コース当たり3時間分のクラスが割り当てられているため、週で9時間の授業があります。3時間レクチャーという授業もあれば、1時間のレクチャー、2時間のチュートリアル(少人数のクラスでグループワークやディスカッションを行うもの)が別の時間に設定されている授業もあり、また千葉大学のように時限ごとの時間が設定されているわけではないので、履修登録であれこれ考えるのも新鮮でした。2週目には履修科目も決まり安心していましたが、「Language Management」の授業が、学生の人数が足りないことを理由に突然キャンセルになりました。履修締切の2日前のキャンセルで相当焦りましたが大学のサポートにも助けられ、現在はかわりにスペイン語のコースを履修しています。やはり留学中はなにが起こるかわからないので、履修期間中には授業を少し多めに取って、後から削っていく方をおすすめします。授業の内容としては自分の興味のある分野で面白いですが、英語に関しては苦戦しています。特にチュートリアル内のディスカッションでは、現地の学生が話す英語の速さに置いていかれることもしばしばあります。チュートリアルでも理解できない部分はありますが、その内容は録画されており、後から聞くことができるので、復習の際とても役立っています。



2. 生活の状況



メルボルンの気候は日本とは正反対で、到着した7月上旬は一番寒い時期だったので、気温になれるまで少しかかりました。私は留学期間中、RMIT Village という学生寮でインド人留学生のルームメイトと生活します。この寮は無料のジム、小さな屋外温水プール、BBQなどの設備が整っており、また立地が良いといった魅力がある一方で、家賃は高額で月当たり10万円以上かかります。メルボルンの住居の家賃は場所によって本当にま

ちまちなので、現地に来てから自分の条件に合う長期的に生活する場所を決めた方が、家賃は抑えられると思います。私が通う City キャンパスはメルボルン中心エリアにあり、寮はそのキャンパスから徒歩15分ぐらいのところにあります。交通に関してはメルボルン中心部ではトラムによる移動がほとんどです。CBD 内は運賃がかからないフリーゾーンが設定されており、1日乗り放題の価格も\$4.30（日本円で約350円）ととてもリーズナブルな価格になっています。また郊外に行く際の電車、バス、トラムも充実しており、移動手段の乏しい留学生には生活しやすい環境です。次に食事に関して、メルボルンはいろいろな国の料理が楽しめますが、日本食の人气が上がっているようで、そこら中にあるラーメン、寿司を始め、丼ものやうどんなどの日本食レストランも充実しています。しかし外食の値段は日本での生活（西千葉駅周辺の定食屋、牛丼、ラーメン）と比べると高額で、西千葉ではほとんど外食だった私もメルボルンでは自炊を頑張っています。寮の近くにクイーンビクトリアマーケットという大きな地元市場があり、そこで肉、魚、野菜など大抵の食材を買うことができます。メルボルンで生活を初めて一ヶ月、メルボルン動物園に行ったり、天の川を見に行ったり、イベントやクラブに参加したりと、勉強と両立できる範囲でいろいろなことを楽しもうと行動しています。

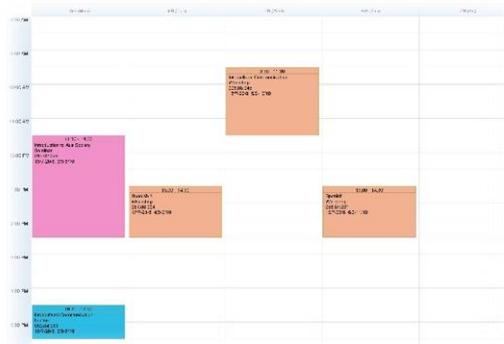


海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間： 2018/08/06 ~2018/09/05)

1. 勉学の状況

RMIT 大学での授業が始まって7週間が経ち、授業スタイルや課題の量にも大分慣れてきました。履修に関して、いくつかのコースでは同じ内容のクラスが複数設けられており、都合の良い時間のクラスを取ることができます。最終的に私は受講している3コース (Introduction to Australia, Intercultural communication, Spanish 1) のクラスを右のタイムテーブルのように振り分けました。



月曜日から木曜日までクラスがありますが、月曜日以外は1-2時間のクラスが一コマあるだけなので、授業以外の自由な時間は比較的多いです。しかし各クラスの課題、予習の量が日本の授業と比べて多いので、授業以外の時間をどう使うかしっかりと計画を立てることが重要です。毎回のクラスの予習として20-30ページほどのPDFの文章や一時間ほどのビデオが課されます。また1学期に各コース2,3個のレポート課題があります。レポートを書く際内容はもちろんのこと、文法やスペルミス、決められた参考文献の書き方にも気をつけなくてはならないので予想以上に大変でした。RMIT大学の図書館にはStudy and Learning Centreという課題に関してアドバイス、サポートを受けられる施設があります。ここではさらに英語だけでなく数学や科学に関するサポートも行っているため、様々な学生が利用しています。特に学期後半の分量の多いレポート課題を行う際に活用したいと思っています。授業の内容に関しては、月曜日のレクチャーを除いて、ディスカッションやプレゼンテーションなど学生の能動的な活動が求められており、受動的に授業を受けるというスタイルはほとんどありません。このようなクラスをこなすためには、よりしっかりと予習を行う必要があります。9月の後半にはグループプレゼンテーション、個人プレゼンテーション、インタビュー調査などの課題があります。

2. 生活の状況

メルボルン都市部での生活にはすっかり慣れました。メルボルンはオーストラリア国内でも南にあるので、8月になっても寒い日が続いています。8月の中旬には世界で一番寒い朝を迎えた都市になるなど、特に明け方の冷え込みは厳しいです。都市部では雪が降ることはありませんが、郊外に行くとスキーやスノーボードなどのウィン



タースポーツが充実しています。私も8月下旬のセミスターブレイク（1週間すべての授業がお休み）を利用して、都市部から車で3時間ほどのところにある Mt Baw Baw という雪山でスキーをしてきました。このスキー旅行は ROC (RMIT Outdoor club) というクラブが開催したもので、スキー装備のレンタルや往復の移動をクラブが行ってくれるため、通常の個人旅行の費用と比べ 1/3 程度の値段（\$95：日本円で8,000円ほど）でスキーを楽しむことができました。ROC は RMIT 大学の中で所属している学生が一番多く、様々な活動の中で好みの活動に参加するというスタイルです。また今月はメルボルン市内の2つの博物館に行ってきました。博物館をはじめいくつかの施設では、大学生として無料もしくは割引の恩恵が受けられます。移民の歴史や先住民の歴史について知ることができ、興味深い内容でした。



日常生活について、前回報告したトラムは便利なのですが、新しい交通手段として自転車を購入しました。自転車は新品で購入すると安いものでも\$100（8,000円ほど）以上はかかるため、Gumtree というメルカリ的なアプリを使用し\$30（2,500円ほど）で中古のマウンテンバイクを購入しました。メルボルンは自転車専用のレーンがしっかりと整備されているので移動しやすく、購入した自転車をほぼ毎日乗り回しています。また Gumtree の出品者と購入者が直接会って商品を渡すスタイルは新鮮でした。食事について、メルボルンでは日本食レストランだけでなく日本の食材も簡単に見つかります。スーパーマーケットでも醤油や味噌などの調味料が揃っています。またアジア系のお店や日本に特化した店もありそこでは日本からの輸入品も多く



売られています。また炊飯器を\$10 ちょっとならでで購入し美味しくご飯を炊いています。前回報告した通り外食は基本的に高いので、友人と夕飯を食べようとなったときは、比較的低価格なアジア系のレストランに行くか、アパートに集まっています。9月後半からは課題で忙しくなりそうですが8月のはのんびりと過ごすことができました。

海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2018/09/06 ～2018/10/05)

1. 勉学の状況

私の留学期間であるセミスター2は、10月の終わりから11月の半ばにかけて最終試験と最終課題が設定されています。そのため9月の半ばから中間課題がいくつか課されました。通常の課題に加えて、週に1,2回プレゼンやレポート、そのためのミーティングや準備をこなさなくてはならなかったため生活は忙しいです。具



体的に期間中に行った課題として Intercultural communication の4人グループでのプレゼンテーション(20分)、同コースの最終課題のリサーチとして非英語圏出身者へのインタビュー（私は北海道出身のオーストラリア歴5年の方に受けていただきました。）を行いました。グループプレゼンテーションでは、オンラインでのやり取りだけでなく、全員の都合が合う時間に数回集まって、段取りや内容、プレゼンのスライドなどについて話し合いました。私の暮らしている学生寮は大学から近いため、私はいつでも良かったのですが、他の3人は大学から1時間ほどの地域に住んでおり、大学にいる日も限られていたため、ミーティングの予定がなかなか決まらず大変でした。Introduction to Australian Society の授業では、オーストラリア社会の一面を表しているものことに関するプレゼンテーションが課され、個人プレゼン(5分)を行いました。最初はコーヒーと移民文化というテーマで話そうと思っていたのですが、私がプレゼンを行う2週間前に、ほとんど同じことを言われてしまったので、テーマを変えてウルル（エアーズ・ロック）に関するプレゼンを行いました。またこの授業では講義の代わりに3回（先住民族、移民、スポーツ）ミュージアムを見学する遠足がありました。中でもナショナルスポーツミュージアムは実際のクリケット球場の中にあり、競技の体験スペースもあり面白かったです。最後にスペイン語の授業ではビデオ課題を行いました。これはペアになってスペイン語のみで4分間好きなレストランを食レポするというものでした。習ったスペイン語で精一杯、お気に入りの牛丼屋さんを食レポしました。準備に時間がかかりましたがこれが一番楽しい課題でした。

2. 生活の状況

月の半ば頃から課題やプレゼンテーションで忙しくなり、大学の授業とその準備にほとんどの時間を使っていました。今月は所属しているクラブ活動に行く頻度も減り、メルボルン郊外へ遠出をすることもありませんでした。所属していたラテンダンスクラブでは参加生徒の不足によりこのセミスターの活動が終わってしまいました。ほとんど変わったことをしなかった今月ですが、1つだけ大きいイベントに参加しました。日本をテーマにしたイ



ベントではメルボルン最大級という Uni ナイトというイベントについて話します。1000 人近くの人がバーに集まって、飲んだり話したり踊ったりを楽しむというイベントでした。金曜日の夜に開催だったのと、参加者の多くはヴィクトリア州の各大学生だったので、一時課題のことは忘れてまた安心して楽しむことができました。さらに参加者も大学の日本クラブに在籍していれば \$5 で入場することができ、ビール一杯無料で楽しめるのでとてもお得だと思います。毎年恒例?のようなので、メルボルン滞在中にこのイベントを見かけたら是非参加してみてください。

また日々の生活では遊びに行く時間があまりないので、いろいろなレストランで外食することで気分転換しています。最近では、マレーシアインドネシア料理、香港料理など日本ではあまり馴染みのなかった料理も試していますが、マレーシア料理が気に入っています。またイタリア系移民が多く越してきた地域では本場のイタリアンが食べられるというように、様々な移民が各国本場の料理を出しているレストランが多くあるため、本当にいろいろな種類の料理を楽しむことができます。



海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2018/10/05 ～2018/11/05)

1. 勉学の状況

今月の2週目が、今セミスター授業の最終週でした。7月から全12週に渡ってRMITの授業を受けてきましたが、千葉大学の8週×2タームと比べても短く、授業期間はあっという間に過ぎたように感じました。授業も終わりが近づくにつれ、内容のまとめや最終課題の説明、確認テストなど忙しくなりました。授業外でもオンラインでの確認テスト、最終課題、期末テストがあり、13週目以降も課題とテスト対策を取り組んでいました。期末テストの期間は10月の22日から11月9日までと設定されています。しかし、私が受講したコースでは10月の22日のスペイン語のテストだけだったので、他の学生と比べて早く今セミスターを終えました。先月の終わりからテスト期間にかけて、大学の図書館は常に混雑しており席を見つけるのが大変でした。

ここで今月行った課題を受講したコース別に課題やテストを紹介します。Intercultural communicationでは、最終課題としてCultural & Linguistic profileと、オンライン確認テストであるQuizの2つが課されました。最終課題は、事前に準備したインタビュー内容を授業の内容をもとにして分析を行うレポート式の課題で、2500字の文字数が設定されていました。これが分量的にも、内容的にも最もハードな課題でした。Quizは授業で習ったコンセプト、用語に関する問題が30分間で20問出されるというものでした。学生それぞれが自由な時間にオンラインでQuizを受けられるようになっており、私にとって初めてのスタイルだったので新鮮でした。次にIntroduction to Australian Societyについて、最終課題として1500字のMagazine Articleが課されました。この授業は基本的に留学生用の授業のため、学生の母国の雑誌に掲載する文章という設定で、オーストラリアの事象を取り上げ、その背景にあるオーストラリア社会の側面を論じる課題でした。最後にスペイン語に関して、最終週の二回の授業ではリスニングとオーラルの確認テストを行いました。オーラルの確認テストは二人組のペアになって5分間スペイン語で話すというものでした。予想以上にスムーズに話すことができました。最終課題として、2時間半のテストが大学で行われました。大教室で他のレベルのスペイン語コースと共にテストを受けました。

2. 生活の状況

今月は22日のスペイン語の期末テストが終わるまで、課題とテストの準備に多くの時間をかけていました。しかし週に1,2回ほど、友人とビーチに行ったり、ビリヤードをやったりして息抜きもしっかり行いました。中でもSt Kilda Beachがとても良かつ



たので紹介します。このビーチはCBDからトラムで30分ほどのところにあります。メルボルンの中心地から近い距離にありながら、白い砂浜が整備されており、また夕方には近距離でペンギンを見られる岩場もあるので一日楽しめるスポットです。また日入り時には太陽がちょうど正面に沈むので、その時間帯はとても良い雰囲気でした。またテストが終わった直後の25日には、Great Ocean Roadというメルボルンシティからは1時間半ほどの観光スポットへのツアーに参加しました。通常のツアーでは50ドル（およそ4,000円）ほどかかるのですが、フェイスブック上で見つけた留学生のための無料のツアーに参加することができました。こういう無料のサービスやツアーもオーストラリアでは一般的なので、SNSをチェックすることでお得に生活することができます。現在は大学の勉強は終わり、自由な時間を満喫しています。12月の半ばまで、オーストラリア国内を旅行したり、様々なイベントに参加したりしてメルボルンでの生活を続ける予定です。



海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2018/11/06 ～2018/12/05)

1. 勉学の状況

大学は先月末に終わったため、特にありません。

2. 生活の状況

大学のセミスターが終わり、忙しかった生活から予定を自分で決めなくてはならない生活が始まりました。月の前半はやることを決めていなかったため、ダラダラした生活をしてしまいました。また大学でできた友人たちも、自国に帰ったり、バイトボランティアを始めたりしたため、あまり遊ぶことができませんでした。もう少し計画的に行動するべきだったと反省しています。それでもメルボルンには、ランゲージエクスチェンジやフェスティバル、ワンデイトリップなど様々なイベントがあるので、週に2,3回はこれらのイベントに参加していました。また医療分野に関して、留学生が必ず入らなければいけない OSHC という保険がかなり広い範囲をカバーしているので、値段を気にすることなく医療サービスを受けることができました。私が受けたサービスは視力検査とワクチン接種です。特にワクチンは日本でも保険がきかないものが多く、日本より安い値段のワクチンを保険でさらに値段を半額ほどに抑えることができるので、ワクチンが必要な方はオーストラリアで摂取することをおすすめします。私の場合は来年のメキシコ留学に向けていくつかのワクチンを打ったのですが、予想以上に値段が抑えられてラッキーでした。また病院システムも日本と違って、診察代は一切かかりませんでした。また薬局で購入したワクチンを病院で打ってもらうというスタイルも取ることができ、日本の病院よりも患者が主体的に動くという形式でした。月の後半からは、オーストラリア国内一人旅を計画し12月2日に出発しました。最初の目的地としてオーストラリアの中心にあるウルル、エアーズロックを訪れました。12月5日にはブリスベンに移動しました。旅の途中で会う人々も様々なバックグラウンドを持つ人ばかりで多文化のオーストラリアらしいなと感じています。

